広島県のがん罹患率

杉山　裕美*　　西　信雄　　有田　健一　　安井　弥
梶原　博毅　　鎌田　七男　　小笹　晃太郎

１．目的

広島県は地域がん登録を2002年に開始し、これまで2002年～2005年のがん罹患について、2006年度から2008年度にかけて報告してきた。初回報告である2002年診断患者のDCO（death certificate only）割合は37.2%であったが、2008年度から遡り調査を開始したことから、DCN（death certificate notification）割合は19.4%であった2005年診断患者のDCO割合は10.0%と着実にがん登録の診断精度を向上させた。本報告では、広島県における2005年診断症例の罹患数・率と、2003年から2005年のがん罹患数・罹患率の動向を検討する。また、現在広島県地域がん登録は、広島市地域がん登録、広島県腫瘍登録（病理登録）とデータをデータベース内で集約していることから、広島県地域がん登録の資料源の構成も検討する。

２．対象と方法

2003年～2005年において悪性と診断され、広島県地域がん登録に登録された症例を対象とした。2009年4月に集約した情報をもとに、各年の罹患数、罹患率を求めた。2003年診断例については、全国罹患率（推計値）を基準として、広島県のがんの標準化罹患比を算出した。そして登録精度（DCN割合、DCO割合、MV%（microscopically verified cases）、HV%（histologically verified cases））の経年変化を男女別、部位別に検討した。また資料源、すなわち広島県地域がん登録の届出票、広島県腫瘍登録の病理診断報告書写、広島市地域がん登録の採録票の構成の推移について検討した。

３．結果

2003年から2005年新規診断症例におけるがん罹患数（上皮内がんを除く）は17,862例から18,550例に（男性10,762例から10,941例、女性7,100例から7,609例）増加していた。年齢調整罹患率は人口10万対で男性は503.7から489.5に減少していたが、女性は279.5から297.9と微増であった。

部位別の罹患割合を見ると、2003年診断症例の男性では、胃がんが最も多く（18.5%）、次いで肺（13.4%）、前立腺（13.3%）、肝および肝内胆管（10.7%）、結腸（10.4%）であった。女性では、乳房が最も多く（15.3%）、次いで胃（15.0%）、結腸（12.2%）、肺（8.8%）、肝および肝内胆管（7.4%）であった。2005年診断例の男性では胃が最も多く（19.5%）、次いで肺（14.5%）、前立腺（11.6%）、肝および肝内胆管（10.1%）、結腸（9.1%）であった。女性では乳房が最も多く（17.0%）、次いで胃（13.0%）、結腸（11.5%）、肺（9.0%）、肝および肝内胆管（7.3%）であった。

広島県における2003年診断例の標準化罹患比は、全部位（上皮内がんを含む）では、男性は1.28（95%信頼区間（CI）＝1.25-1.30）、女性では1.19（95%CI＝1.16-1.21）であった。

*（財）放射線影響研究所疫学部
〒732-0815　広島市南区比治山公園5-2

また、部位別にみると、男性では、胃 1.16（95%CI＝1.11-1.21）、肺 1.03（95%CI＝1.08-1.14）、前立腺 1.51（95%CI＝1.43-1.59）、肝および肝内胆管 1.70（95%CI＝1.60-1.80）であった。女性では乳房 1.11（95%CI＝1.04-1.17）、胃 1.21（95%CI＝1.13-14.28）、結腸 1.29（95%CI＝1.16-1.42）、肺 1.13（95%CI＝1.04-1.22）、肝および肝内胆管 1.60（95%CI＝1.47-1.74）であった。男性、女性ともに、全部位の標準化罹患比が 1 より大きかった。特に肝および肝内胆管の標準化罹患比が高かった。

登録精度については、2003 年から 2005 年において、DCN 割合は 26.5%から 19.4%に、DCO 割合は 26.5%から 10.0%に向上していた。また、MV 割合は 94.0%から 94.5%、HV 割合は 86.9%から 87.3%にわずかに向上していた。

罹患数に対する各資料源の占める割合は、2003 年から 2005 年にかけて、届出票割合は 26.5%から 49.4%に向上していた。病理診断報告書写はそれぞれ 61.8%から 59.7%で、概ね 3 年を通して 6 割前後であった。採録票は通常届出票よりも 3 年ほど遅れて入ってくることもあり、2003 年は 12.1%であったが、2004 年、2005 年は登録がまだ完了していないため 1.7%にとどまっていた。

４．考察

広島県における罹患率を 2003 年と 2005 年の間で比較した。広島県における罹患数は若干増加しているが、年々届出票の占める割合が向上していることから、届出率の向上が寄与していると考える。2003 年診断症例の標準化罹患比は、全部位において 1 を上回っていた。広島県の 2003 年がん標準化死亡比は、膀胱がんと子宮がんを除いて 1 より小さいが、肝臓がんの標準化死亡比だけが 1.3 と大きいことが特徴的である。今回初めてがんの標準化罹患比を算出し、広島県における肝臓がんの罹患率、死亡率がともに高いことが確認できた。今後もがん罹患の動向を継続的に観察していく必要がある。

参考）広島県におけるがん登録の概要

	開始年	対象地域 （人口：2005 年）	届出 対象	届出方法
広島県地域がん登録	2002 年	広島県 （2,876,642 人）	悪性	医療機関からの届出 届出票（標準届出票に準拠）
広島県腫瘍登録	1973 年	広島県 （2,876,642 人）	良性 悪性	病理医からの届出 良性：病理診断報告書写 悪性：病理診断報告書写とプレパラート
広島市地域がん登録	1957 年	広島市 （1,154,391 人）	悪性	専門スタッフによる採録 採録票（標準届出票に準拠）